

<b>国際会計論 A</b>		<b>非常勤講師 白山 真一</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>国際ビジネスコースの専門 選択科目、会計ファイナン スコースの専門選択科目 教職科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>23220209 25320206</b>

### 1. 授業のねらい・概要

現代の経済社会においては、企業は市場を求めてグローバルに活動を展開し、資金は投資先を求めてグローバルに瞬時に移動する。会計の役割が情報利用者の意思決定に有用な情報を提供することにあるならば、グローバルに存在する企業内外の利害関係者に対して、統一的な会計基準に基づき企業業績や財務状況を認識・測定・開示することが必要となる。そのために、国際財務報告基準 (IFRS: International Financial Reporting Standards) が作成されている。本講義では、このような背景の理解を前提に、IFRS の考え方を平易に解説し、必要に応じて日本基準との比較をしておくことによりその内容を理解することを目的とする。なお、「会計学基礎」「会計学総論」「財務会計論」などの会計関連諸科目を履修していることが望ましい。

### 2. 授業の進め方

各回について、以下の 8. に記載のテキストを利用した講義形式で実施する。必要に応じて講義中に新聞記事や補助レジュメを配布し、これらも活用しながら理解を深めるように実施する。

### 3. 授業計画

1. 国際会計が必要とされる背景 (ガイダンス)	9. 金融商品の会計 ② (認識の中止・事後測定)
2. 会計基準の収斂の動向	10. 棚卸資産の会計
3. 国際財務報告基準の基礎的特徴	11. 有形固定資産の会計
4. 財務諸表の表示 ① (財政状態計算書等)	12. リースの会計
5. 財務諸表の表示 ② (包括利益計算書等)	13. 無形資産の会計
6. 収益認識の会計 ① (収益認識のステップ)	14. 減損の会計
7. 収益認識の会計 ② (具体的な収益認識の事例)	15. まとめと復習
8. 金融商品の会計 ① (認識・測定)	

### 4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の講義テーマについて基本テキストの該当箇所の予習 (1 時間程度) をしておくこと。

### 5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

各回で講義をする IFRS の基本的な概念や用語を自らの言葉で説明できるようになること。

### 7. 成績評価の方法・基準

授業への取組み姿勢 (50%) および定期試験の結果 (50%) によって、評価する。

### 8. テキスト・参考文献

テキストは、向 伊知郎著 (2019) 『ベーシック 国際会計 (第 2 版)』 (中央経済社) を使用する。参考文献は適宜紹介する。

### 9. 受講上の留意事項

毎回の授業はテキストに従って実施するので、テキストは必ず持参すること。IFRSは高度に抽象的な概念が多く出てくることから、疑問点や不明点は遠慮することなく、積極的に講師に問いかけてもらいたい。